

薬草栽培で町おこしを

調査の上検討したい



おなが まさひろ 議員 小永 正裕

答 松田 農業振興課長

H22年度生産量が主産品のキュウリについては、1735tで4億4千万円、ミヨウウガは、117tで2億2千万円、また、生産品目全体の販売金額を見ると、23億7400万円、過去5年間の実績を見ると、多少の上下はあるが、いずれもほぼ横ばい状態が続いている。

しかし、近年の燃油や資材単価の高騰により、生産コストがかさみ、所得は落ちていると考えている。

次に、農家戸数と耕作面積の推移は、自給的農家数を除いた専業、第一種兼業、第二種兼業の農家の総数は、前回調査のH22年が539戸で、20年前の調査と比較すると、887戸も少なくなっている現状。

また、経営農地面積は、H22年では473haで、20年前との比較では204haも減っている。

昨年度の黒糖生産農家数は49戸、販売見込み額が1400万円、ドクダミ栽培組合員は16人、昨年は40tの生産で日本一と思われる。

高齢化対策と支援策については、国、県の色々な補助や新規就農対策があるので活用していくと共に、IPM技術、集落営農組織などを活かして、安心、安全な農業を育成したい。

新たな特産品は、考えていない。

問 より一層の活性化を図るために、生産量の拡大、確実な販路、高額の収入、長期にわたる必需産品である、作業が楽なことなどを考えると、薬草栽培が、適切な特産品として、浮かび上がって来る。

本町には、国営農地や中山間地域での耕作放棄地なども多くあり、町で、研究熱心な

人を募り、パイロット農園を用意し、リーダーを育成し、試験栽培を開始すべきと考えるが、どうか。

答 松田 農業振興課長

有望な特産物としての可能性が考えられるので、調査研究をしていく。

特産品開発協議会とか、集落営農組織とか、そういう面からの協力を得ながら、又、町でも試験栽培などにも取り組みながら、一生懸命やっていきたいと考える。

答 森下 産業推進室長

私も薬草には、大変興味もある。

栽培には、難しい面もあるようだが、研究をさせてもらいたい。

サトウキビ生産者も年間を通じて作業があるわけでもないので、一年間のサイクルの中で取り入れていければ、なお良いと思うので、検討していきたい。



ミシマサイコの黄色の花つぼみ 多くの漢方薬に利用される